

当院で心房細動に対するアブレーション治療を受けた患者さん・ご家族様へ

研究へのご協力をお願い

当院では、以下の看護研究を実施しています。この研究の目的は、当院で心房細動に対するアブレーション治療を受けた患者様の記録をさかのぼり、右大腿静脈のカテーテル穿刺部からの出血のリスク因子を明らかにすることです。ご自身またはご家族の健康に関する新たな結果が得られるものではありません。また、研究のために、新たな検査などはいりません。この案内をお読みにになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないのご意思がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。お申し出による不利益は一切ありません。

ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】

- 1) 2020年3月1日～2020年9月30日の間に、当院で心房細動に対するアブレーション治療を受けた方
- 2) 20歳以上の方

【研究課題名】

心房細動に対するアブレーション後の右大腿静脈穿刺部からの出血のリスク因子を明らかにする

【研究責任者】

国立循環器病研究センター 9W 病棟 看護師 佐藤千鶴

【研究の意義・目的】

本研究の目的は、右大腿静脈のカテーテル穿刺部からの出血の危険因子を明らかにすることです。本研究を通して、アブレーション後の右大腿静脈穿刺部からの出血のリスク因子が明らかになれば、出血しやすい患者さんに注意し、出血を予防するための看護介入につなげることができると考えられます。

【利用するカルテ情報】

年齢、性別、身長、体重、疾患名、術前の血液検査（凝固検査、血小板数、BNP、クレアチニン、尿素窒素）、内服している抗凝固薬または抗血小板薬の種類、アブレーション治療を受けた回数、アブレーションの種類、術中に使用したシース（カテーテルを出し入れするた

めの医療機器)の本数、術中に使用したカテーテル径、アブレーション中に使用したヘパリン量/プロタミン使用量、カテーテル室での最終の凝固時間、圧迫解除時間、出血した際の行動(例:起き上がった時に出血した、安静時間中であつたのに出血した等)、行動目的(例:トイレに行きたかつた、安静時間が終了したので動きたかつた)、出血後の再圧迫解除時間

【研究期間】研究許可日より2023年12月31日(予定)

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

【問合せ先】

国立循環器病研究センター 9W 病棟 看護師 佐藤千鶴
電話 06-6170-1070 (代表)